今回の展覧会では、「独自の近代文化」の形成に大きな役割を果たした、鳥取市とその周辺で生まれ育った人々について紹介します。

展示で扱うのは、橋浦泰雄（画家・民俗学者）・白井喬二（小説家）・生田春月（詩人）・尾崎翠（小説家）・涌島義博（文学者記者）・吉村撫骨（評論家・政治家）といった人々で、その活動の足跡を、「同郷人のネットワーク」という視点からみていきます。

これまでも、個々の人物についてはさまざまな形で紹介されてきましたが、これらの人々は、実は個人の才能や能力だけで活躍したのではありません。故郷・鳥取で、文学仲間などの形で培われた同郷人のネットワークが、上京した後の彼らの活躍を支えたのです。今回は、その「鳥取人ネットワーク」の姿を、さまざまな角度から検証します。

ある時期、東京の鳥取人ネットワークの核となった作家・有島武郎（鳥取砂丘に歌碑が残る）の遺品は、鳥取市初登場です。また、橋浦泰雄の弟で、明治社会主義運動の時代から、終生社会運動に携わった橋浦時雄の資料は、展覧会としては日本初公開となります。

やまびこ館 開館5周年記念特別展
「もだにずむ@とっとり」Part 2
おうちだに画報
鳥取発大正・昭和を翔け抜けたひとびと
9月3日（土）～9月25日（日）

当時のモダンボーイたち、モダンガールたちの生真面目な頑張りと、「中央」と「地方」を結びつける「郷土」への思いを感じ取っていただければ幸いです。

（鳥取市歴史博物館　佐々木　孝文）

▷オープニングセレモニー
9月3日（土）午前9時～
セレモニー後、学芸員による展示解説

▷学芸員講座
9月11日（日）午後2時～3時
「東京の鳥取人　地域文脈で読みとくモダニズム時代」
講師　佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）
定員　先着40人(事前申し込みが必要)

▷記念講演会
9月18日(日）午後2時30分～4時
「橋浦泰雄の活動の場」
講師　鶴見太郎さん（早稲田大学文学学術院　助教授）
定員　先着60人(事前申し込みが必要)

▷映画上映会
9月23日(金・祝）午後2時～
「お伊勢詣り（旅籠屋騒動）」1939年
監督：森　一生（56分）
鑑賞無料(特別展･常設展見学は有料です)

※9月12日（月）は「県民の日」のため、臨時開館します。　なお、9月10日（土）、11日（日）、12日（月）は入館無料です。

■問い合わせ先　やまびこ館　上町88
TEL（0857）23-2140

SAJI Astro Park

宵の明星「金星」

薄暗くなってきた夜7時ごろ、西の低空を眺めてみてください。明るい星が見つかると思います。これが金星です。夕焼け空の中に見える金星のことを「宵の明星」とも呼びますね。これから12月下旬ごろまで、夕方の西空での見ごろが続きます。

また、9月上旬には、木星と接近します。明るい2つの天体の接近は、見ごたえがあると思います。

ひときわ明るく輝く金星は、その美しさから「美の女神ビーナス」の名をもちます。しかし、金星はとても過酷な世界です。表面の気温は470度で90気圧もあり、硫酸の雨が降るといわれています。これは、金星が地球より太陽に近いため、多くの熱を受け、二酸化炭素による温暖化が進行したためと考えられています。

これに対し、地球に届く太陽熱はほどよかったため、海ができて温暖化を防ぐ仕組みが機能したため、生命に満ちあふれる豊かな惑星になったと考えられます。

現在、人間が出す二酸化炭素が地球温暖化を進行させているといわれています。温暖化を防ぐ地球の機能を越えてしまうと、地球も金星のような過酷な世界に変わってしまうかもしれません。美しい光を放ちながら、金星は私たちに警告しているのかもしれません。

佐治天文台長　香西洋樹の「空の向こうに見えるもの」

Vol.2 名月や

名月や　池を巡りて　夜もすがら　松尾芭蕉

「満月」

今年の中秋の名月は、9月18日。美しい名月が日没とともに東の地平線から顔を出します。昔から親しまれてきた、日本の伝統行事の一つです。ところが、この名月の日付が毎年変わるのでやっかいです。現在使われている暦は、太陽の動きに合わせた太陽暦で、月の満ち欠けは一致しません。そして、中秋の名月は、秋分を含む月の新月から15番目の夜と決められています。さて、今年の秋分は9月23日で、新月は9月4日。この4日から数えて15番目の夜、18日の夜が中秋の名月に当たるのです。今年の名月は、運良く満月。真ん丸な月を愛でることができるでしょう。そして、立ち待ち月、居待ち月、寝待ち月と続き、名月の夜が曇っていたり雨が降って月見ができないときでも中秋無月といって、雲の彼方の名月に心を遊ばせたのも、日本人の豊かな自然観だったのでした。

さて、今年の名月はいかがでしょう。澄み切った空で輝く月を堪能したいものですね。

見上げてごらん StarWorld